

いわて思春期研究会ニュースレター

第5号

2013年6月3日発行

発行元：〒020-0107 岩手県盛岡市松園 2-2-6 臼井循環器呼吸器内科内「いわて思春期研究会」事務局
FAX 019-663-3633

2013年度いわて思春期研究会総会・研修会のお知らせ

2013年6月16日(日)12:30～16:30

会場:エスポワールいわて 3階 特別ホール



2013年度の総会・研修会が、上記の日程で開かれます。会員の皆様には、すでに案内と出席確認のはがきが届いていることと思います。お誘いあわせの上、たくさんのご参加をお待ちしております。研修会の内容は以下の通りです。

テーマ「思春期教育をどのように進めるか！」

- 13:10-13:50 基調講演 「学校における思春期保健の現況」
岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課主任指導主事兼主任保健主事 入駒 一美
- 13:50-14:50 活動報告 「会員が学校で行っている思春期教育の実際」
- 13:50-14:20 小学校・中学校での思春期教育 いわて思春期研究会副会長 臼井 由紀子
- 14:20-14:50 「高等学校での思春期教育」 いわて思春期研究会副会長 秋元 義弘
- 15:00-16:00 自由討論「小学生・中学生・高校生に何をどのように伝える？」～その指導内容と方法～

2012年度 第2回いわて思春期研究会研修会の報告

2012. 12. 16



「いわて思春期研究会会員による、それぞれの活動紹介」

- ① ライフスキル講演を行う際の、対処別：『触れるべきところ』『これをやっちゃだめよ、なところ』『押さえておくべき岩手の状況、若者の状況』 岩手県立二戸病院産婦人科科長 秋元 義弘
- ② 『岩手県の青少年の自尊感情と生活実態に関する調査』のパイロット調査結果概要 下水道公社 佐藤 卓
- ③ 「大津市いじめ事件を考えるワークショップの提案」 ペアレント・プロジェクト・ジャパン事務局長 佐藤佳子
- ④ 「学校における思春期教育に対するいわて思春期研究会のアプローチ」
岩手県二戸高等看護学院副院長兼教務科主任 奥寺 三枝子

研修会には28名の参加があり、上記の4つの発表を20分ずつ聴きました。その後、グループ分けした参加者同士で、さまざまな立場から、性教育について、子ども達の現状について考えていることの交流、情報交換を行いました。

第 29 回

岩手県学校保健・学校医大会で

いわて思春期研究会の活動を

発表しました (2013.1.20)



本大会は、岩手県医師会主催で、毎年学校医や養護教諭など学校保健に関わる方が集まり、産婦人科、小児科、耳鼻科、眼科など様々な学校保健分野の課題や、取り組み・実践等についての発表が行われるものです。今回、産婦人科医会からの推薦で、**当会理事奥寺三枝子さん**が、「**思春期教育に対するいわて思春期研究会のアプローチ**」と題し発表しました。

概要を紹介します。

いわて思春期研究会は、岩手県の思春期の子どもたちへの性の健康問題や健全な成長発達を支援するために平成 21 年 9 月 5 日に設立されました。母体となったのは、平成 4 年に発足した盛岡保健所主催の思春期談話会でした。しかし、この会が平成 19 年に解散したため、思春期問題を語り合う場を引き継ぎたいという思いから、現会長の小林高先生、副会長の秋元義弘先生、県立大学の福島裕子さん、奥寺三枝子さんが発起人となって新しい会を立ち上げ、現在に至っています。

活動は、理事会に事務局、研修部、調査研究部、広報部を置き、理事がそれぞれ担当を持ち活動しています。

① 研修部

年 2～3 回の研修会の企画・運営を担当していて、最近では「思春期の性、男子の性～誰がいつ、どのように教えるか～」と題し公益社団法人ヘルスプロモーション研究センター長岩室紳也先生の講演、「生きづらさを抱えた人々～司法現場から見た発達障害と近隣領域」と題し盛岡少年刑務所医務課長八木淳子先生の講演など、著名な先生方をお招きし、講演いただいた後はグループディスカッションを行うなど有意義な研修となっています。

② 調査研究部

青少年の生活実態や自尊感情、学校における人間関係や親子の関わり等を広く調査し、社会生活上問題となる行動とその背景・要因を明らかにすることを目的に、「岩手県の青少年の自尊感情と生活実態に関する調査」等を行い、子どもの自尊感情は家庭・学校生活の楽しさや、いじめの加害経験と関連していることや、親の自尊感情が親子関係に大きく影響していることなどの結果を得て報告しています。

③ 広報部

研究会のリーフレット作成やニュースレター発行などを行い活動の周知に努めています。

④ その他ホームページの作成・管理やメーリングリストを用いての情報交換・共有なども行っています。

奥寺さんは最後に、「思春期の子供たちには、性、自殺、こころ、虐待、不健康、やせなど問題が山積しています。思春期研究会にはあらゆる職種の方が加入し研修や研究をされており、沢山の情報を持っています。多くの方と連携しながら研修や情報交換を通し、岩手の子どもたちの健康支援を確立していきたい。」と結びました。

フロアの小林高先生、秋元義弘先生からの追加発言と座長の吉田耕太郎先生のまとめもあり、いわて思春期研究会の活動が十分理解いただけたのではないかと思います。 (報告 広報部：米澤)